

株式会社ジェイコムイースト 秦野・伊勢原局

2016 年度 放送番組審議会 議事録

2016 年度の放送番組審議会は、2017 年 3 月 28 日(火)に(株)ジェイコムイースト秦野・伊勢原局で開催された。

〈放送番組審議会委員〉 (五十音順)

—ご出席—

栗原 政男 様	佐藤 伸一 様	中野 貴之 様
成田 勝也 様	横溝 明夫 様	

事業者側から局の現況報告、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(中野会長による進行)

◆コミュニティチャンネルについて

委員 J:COM には「J:COM チャンネル」と「J:COM テレビ」があるが、違いは何か。スカイツリーから放送される電波放送が「J:COM テレビ」なのか。

事業者 J:COM では 2ch のコミュニティチャンネルの認可をいただき放送している。11ch の J:COM チャンネルは地域放送に特化した内容。10ch の J:COM テレビは、全国の J:COM が同じ編成で放送しており、放送センターは小金井。スカイツリーにあるワンダースタジオで生放送している番組(「ご当地サタデー」)は J:COM テレビで放送している一部の番組。両チャンネルとも同様にケーブルの線を使っている。

◆きめ細かい取材

委員 昨年と比べ取材本数が非常に多くなっているが、マンパワーは増加しているのか。

事業者 基本的には地域プロデューサーとメディアセンタースタッフの 2 人で取材を進めているのでマンパワーの増強はしていない。どうしても人が足りない際は外注のスタッフを依頼し取材を行っている。

委員 地域の小さなお祭りなど、とてもきめ細かい取材をしており、番組が(市民に)

浸透してきていると感じる。商工会議所で会員向け折込広告を始めるので、活用してみ
ては。

委員 イベントなどを取材した事後での放送が多いが、事前の告知などはしているのか。

事業者 デイリーニュースは事後での放送が多いが、集客が期待されるイベントなどは、
エリアインフォメーションコーナーで適宜事前告知している。要望はいつでも受け付け
ている。現在、反響のデータ収集は実施していないが、「J:COM を見た」という来場者
にプレゼントするなどの現場検証を考えたい。

委員 取材したもので実際に放送するのは何割くらいか。情報ソースは積極的に出して
行きたいと考えているが、情報提供の仕方に工夫したほうが良い点があれば教えてほし
い。広域的な情報 PR について、例えば丹沢・大山の地域の魅力 PR などは、伊勢原、秦
野の行政の境をなくした情報発信をしたほうが良いと感じている。単独行政だけの情
報では弱い部分や、広域的な活動から新しい取り組みが生まれるのではないかと考えて
おり、取り組みについて意見を伺いたい。

事業者 取材したものはすべて放送している。情報ソースについては 5~6 割程度が広
報紙。局舎がある秦野市の情報が多くなっている。伊勢原市から毎週送られてくる「か
わら版」は、先日付のイベント情報が多く、取材スケジュールが立てやすい。直接取材
依頼の声かけをいただくことも多くなった。今後も継続的に情報を流してほしい。広域
的地域プロモーション連携については、大きな地域資産である大山を考えたとき、伊勢
原市からケーブルカーでのぼり、秦野へ降りるルートで検討してはどうか。J:COM では
夏に湘南で「海カフェ」を開いているので、このエリアで「山カフェ」はどうか。山か
ら下りてきた所にある秦野の緑水庵を活用し、山の日などにカフェを開設することで広
域プロモーションができるのではないかと。

事業者 このエリアの「山カフェ」はキャンプや山関連の番組を放送している「アクト
オン TV」と、うまく協力できると良いと考えている。

事業者 貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。皆様からのご意見を番組制作
に反映させていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以上